

《農地土壌炭素貯留等基礎調査》

地球温暖化の防止等に向けて、国内の農地において、農業生産を通じて土壌中に貯留される炭素の量がどの程度あるのかを農家の皆様のご協力を得て調べています。（事業名：農地土壌炭素貯留等基礎調査事業：農地管理実態調査（農林水産省））

＜調査のポイント＞

以下の点について調査を行います。

- ・ 現在、農地土壌中の炭素の量はどれくらいあるのか？
- ・ 農地土壌中では、炭素の量が増えているのか、減っているのか？
- ・ 堆肥などの有機質資材はどれくらい使われているのか？
- ・ 堆肥などの有機質資材の農地土壌中での炭素貯留効果はどれくらいあるのか？
- ・ 農地の炭素量は、毎年の農業生産、土壌管理を通じてどのように変化するのか？

＜調査の方法＞

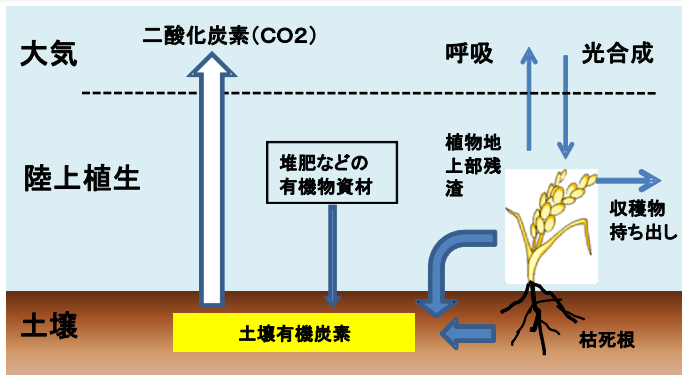
全国各地の農家を対象に、以下の農地土壌調査、アンケート調査を実施します。

・農地土壌調査

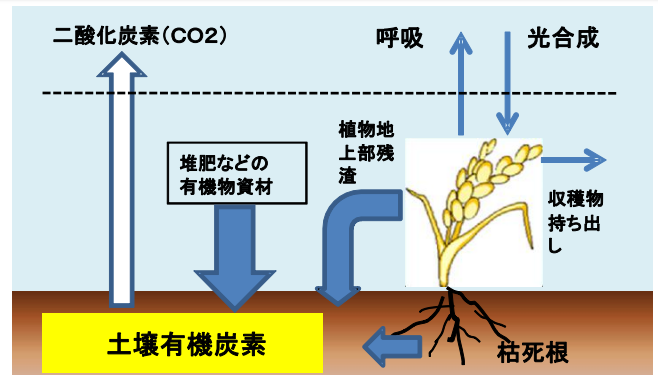
日本全国（2000箇所以上）の農地の土壌をサンプリングし（1ほ場当たり1箇所、幅40cm、深さ30cm程度の穴を掘削し、最大1500g程度の土壌を採取して埋め戻し（コアサンプルを採取する手法の場合は、1ほ場当たり直径5cm、深さ30cmの縦穴を3箇所掘削して土壌を採取して埋め戻し））、炭素、窒素等を分析します。

・アンケート調査

堆肥などの有機質資材、肥料、収穫後の作物の処理等のアンケート調査を実施します。



通常の管理



農地土壌中の炭素を増やす管理
有機物(植物残さ、堆肥)の投入量が多いほど土壌中の炭素は増加します。

本調査の実施を通じて、我が国の農地土壌の炭素貯留量の実態を把握し、その結果は、農地土壌における炭素の貯留効果（即ち、地球温暖化の防止効果）として、国連（気候変動枠組条約事務局）に報告されるとともに、農業生産の根幹となる土づくり対策や、農地土壌に関する研究等の公的な目的に使用されます。

なお、調査にご協力いただいた農家の方のご氏名、調査場所等の個人情報が無断で公表されることはありません。